

2024年3月発行

発行元：公益財団法人 アイヌ民族文化財団

問合せ：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3

TEL:0144-84-6534

H P: <https://ainu-upopoy.jp/>

監修：田村 学（国学院大学人間開発学部初等教育学科教授）

制作協力：株式会社トモノカイ

本書の全部または一部を無断で複写・複製することは、著作権法に基づき禁じられています。
本書の解説書・指導書・ワークブック並びにこれに類するものの無断発行を禁じます。



登別・洞爺エリア × 探究

探究 ワークブック

共生社会を実現するために、わたしたちができること

名前

年 組 番

旅のキーワードは「共生社会」。 さまざまな価値観にふれる旅

「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか？ 人種、宗教、文化、性別、年齢などの違いを問わず、すべての人が互いの人権や尊厳を大切にしながら、共にいきいきと暮らせる社会のことです。社会には多様な人が存在しており、それぞれ異なる価値観を持っています。共生社会を実現す



るためには、バックボーンの異なる人間同志が互いの価値観の違いを知り、それを認め合うことが大切です。そのためには、価値観を育んだ環境や文化などを理解し、相手の立場に立って考えを深めることが必要になってくるでしょう。

今回の旅で訪れる「登別・洞爺エリア」には、それぞれ成り立ちや文化が異なる7市町があり、また、民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)ではアイヌ民族の多様な歴史や文化、言葉を通じ、共生社会についてさまざまな角度から学べます。

これからの時代は、ますますグローバル化が進み、どのような場所に住んでいても多様な人々と支え合い、共に生きることが必要になっていきます。未来の社会の中心となる皆さんは、誰もが生きやすい「共生社会」の創造を担う一人です。

今回の旅では、出会う人々の価値観を知り、それを理解し、受け入れることを意識してみましょう。そうすることで、きっと旅の学びがグンと濃くなるはずです。

考え方や生き方は
本当に人それぞれ。
さまざまな人がいるからこそ、
違いがあることを認識して、
理解し合っていく必要が
あるんだね



自分と他人が存在する以上、
自分の意見ばかりが
スタンダードとは
限らないよね

目次

はじめに	P2	●事前学習	P12
●知るう、地域のこと		●現地学習	P16
登別・洞爺エリアを知ろう	P4	●事後学習	P20
まちの「よさ」を見つけよう	P6		
●アイヌ文化にふれよう			
「共生社会」を考えよう	P8		

今回の旅の ミッション

ウポポイで働く職員や登別・洞爺エリアの地元の方と交流し、これからの時代に必要とされる「共生社会」を実現するために、私たちができること(役割)を考えよう。

今回の旅では、出会った人々と積極的に交流をはかってみましょう。地元の人にその町特有の自然や文化について尋ねたり、ウポポイでアイヌ民族について考えたことなどをスタッフに伝えてみてもよいでしょう。きっと新しい価値観にふれる機会になるはずです。

旅を通してさまざまな価値観にふれたあとは、自分が「共生社会」の実現のためにできること(役割)について考えてみましょう。「反対意見も否定せずに聞く」といった小さなことでもかまいません。その小さな行動の積み重ねが、よりよい「共生社会」の創造につながっていくことでしょう。



学びの流れ

「学びの流れ」を意識しながら、本ワークブックを進めていきましょう。

今回の旅でのさまざまな経験を通じて、自分がどんな価値観を持っているのかを理解し、これからの時代にどのように向き合っていけばよいのか考えてみましょう。

旅行前

1 知る

登別・洞爺エリアの7市町の歴史や文化、気候などについて調べ、まちの「よさ」を見つけてみましょう。また、今回の旅で訪問するアイヌ文化の拠点「ウポポイ」についても知識を深め、今回の旅のミッションでもある「共生社会」について考えておきましょう。

知るう、
地域のこと

P4~7

アイヌ
文化に
ふれよう

P8~11

2 理解する

①で調べたことの中で興味を持ったことをさらに調べ、まとめてみましょう。背景を追求する中で、関わる人々の想いの理解につながっていくでしょう。

事前学習

P12~15

旅行中

3 交流する

旅行中は、地域に住んでいる人や、施設のスタッフと積極的にコミュニケーションしてみましょう。そのコミュニケーションの中でふれたさまざまな価値観をまとめておきましょう。

現地学習

P16~19

旅行後

4 役割を考える

旅で出会った人々の価値観に触れて、どんな感想を持ったかまとめてみましょう。そのうえで自分自身の価値観についても考え、自分ができること(役割)についても考えを深めてみましょう。

事後学習

P20~23

✓ 登別・洞爺エリアでの学びの準備をしよう

今回の旅のミッション /

ウポポイで働く職員や登別・洞爺エリアの地元の方と交流し、これからの時代に必要とされる「共生社会」を実現するために、私たちができること(役割)を考えよう。

今回の旅行全体を通して、上記のミッションに取り組みます。旅行での新たな出会いを自分の学びにするために、まずは事前にある程度、情報をインプットをしておくことが大事です。「自分の住む地域ではこうだけど、別の場所ではどうなっているのだろう」「この部分をもっと深掘りしたい」などの疑問を持つことで、旅行中の行動や考え方にも関わってきます。自分が興味のあることから調べてみましょう。

1 今回の旅行で訪問する施設や体験することについて、調べてみましょう。調査には、パンフレットやウェブサイト、書籍などを活用しましょう。その他、旅行の行程の中で気になったことも、自由に調べてかまいません。

食事や移動時を通る道路、地域で見られる動植物などについて考えてもおもしろいね



●印象に残ったこと

●もっと知りたいと思ったこと

参考資料



国土交通省北海道開発局
室蘭開発建設部 観光体験記
https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/tiiki_sinkou/tn6s9g0000004lww.html



いぶり五大遺産
<https://iburi-godaiisan.jp/>



地球体感 西いぶり
[北海道登別洞爺 広域観光圏協議会
公式サイト]
<https://westiburi.jp/>

2 アイヌ民族の歴史や文化、ウポポイについて調べてみましょう。

アイヌ民族は日本列島北部、とりわけ北海道の先住民族なんだ。「先住民族」とは、どういう意味なんだろう？「原住民族」「少数民族」と合わせて国語辞典で調べて、意味や定義の違いを確認しよう



●印象に残ったこと

●もっと知りたいと思ったこと

グループワーク

3

調べたことを、グループで共有しましょう。メンバーの報告の中で興味がわいたことや疑問に思ったことは、追加で調査してもかまいません。聞いた内容は、下のメモ欄や空いているスペースに書きましょう。表やウェビングマップを用いて整理してもよいでしょう。

●MEMO

✓ 地域の「よさ」を探しに行こう！

16～19ページは現地での学習時に使用します。体験中は自分の意見を書ききれないこともあるので、キーワードだけを書いておく、スマートフォンでメモや撮影をしておくなど、後で思い出せるように工夫しましょう。また、メモ欄が足りない場合は、空いているスペースや他の用紙を使いましょう。

1 訪問した施設やスポットで、見聞きしたことをメモしましょう。また、その際に得た気づきや感想などは、右側の枠に記録しておきましょう。

●見たこと、聞いたこと

●自分の気づきをメモしよう

2 現地で地域の方が話してくれたことや、その方の活動・取り組みなどをメモしましょう。その際、下に示したような観点に着目すると、整理しやすくなります。

●地域の方のお話

●自分の気づきをメモしよう

〈メモの観点〉

- ①地域に対してどんな想いを持っているか
- ②よいと思う面と大変だと思う面
- ③これから先に残していきたいこと

3 事前学習（15ページ）で整理した「いちばん気になったこと」について、気づいたことなどを書きましょう。これまでの認識から変化したことはあったでしょうか。

●15ページの「いちばん気になったこと」を転記しよう

●気づいたことや、これまでの認識から変化したこと

4 現地で体感したことの中で、最も自分が圧倒されたこと、驚いたと思うことは何でしたか。理由も合わせて書きましょう。

●自分の気づきをメモしよう

訪問先で、目を向けてほしいこと

今回の旅行先では、地域の生活や文化そのものが、豊かな自然と密接につながっており、地域の観光資源として成り立っています。それらは、地域の方々がこれまで大切に育んできたものです。人々の生活や生き方が背景にあることを踏まえて、想いを尊重しながら現地での見学や交流を行いましょう。

地域の方の考えや想いを受け取ることが、相互理解につながっていくんだね



✓ 体験・体感したことを振り返ろう

現地では、どんな人に出会い、どんなことを体験しましたか？ 今回の旅行は、皆さんにとって見慣れないことや新しい発見の連続だったことでしょう。

地域の「よさ」とは、豊かな自然だけでなく人々の生き方や社会、歴史、文化などからも見つかります。北海道に昔から住むアイヌの人々は、人が生きていくのに必要なことや影響を与えるもの全てを「カムイ」とよび、大切に扱ってきました。これから先の未来に向けて、昔から続いていた考え方を忘れないことも「共生」につながるのかもしれません。

1 旅行を通じて、最も印象に残ったことを書きましょう。

2 旅行前と旅行後で、イメージや認識の変化はありましたか？ 変化前も含め、できるだけ細かく書いてみましょう。複数挙げてかまいません。

3 訪問した地域で「共生社会」を実現していると感じたことを、理由も合わせて書きましょう。

●「共生社会」を実現していると思った部分

●理由

小さなことも、
多様な考え方の人々が
お互いを尊重しながら
支え合っていると
感じたことを書こう



✓ 旅先で出会った方のことを振り返ろう

1 今回の旅行中に会った、登別・洞爺エリアに住む大人で、印象に残っている人を取り上げ、その理由も書きましょう。

●印象に残っている人の名前

さん

●理由

話を伺った人、
施設を案内してくれた人、
バスやホテルで
お世話になった人など、
地域に貢献している姿が
ステキだった人のことを書こう



2 ①で選んだ人が、大事に思っていることは何でしたか。地域に対する想いや、これからの対する願いや希望などの話を思い出しなが書いてみましょう。

3 ①で選んだ人には、「共生社会」を考えるにあたり、どんな課題があったのでしょうか。また、それに対してどのように取り組んでいたのでしょうか。

4 このページで整理したことから、改めて自分自身の行動や考え方を、2つの観点で見直しましょう。

●尊敬するところ、真似したいと思ったところ

●自分に不足していると思うこと
